

## 「中国 上海日本人学校紹介」

H16派遣 上海日本人学校 井上葉子  
(米子市立後藤ヶ丘中学校)

### はじめに～海を越えた20世紀梨～

2005年の夏から、上海の果物屋さんに20世紀梨が並びました。思いがけない所で鳥取の風にあたることができ、生徒達は元気かなあと懐かしく感じました。

さて、過去から現在に至るまで中国と日本は隣国として密接な関係を築いてきました。ここの所「政治は冷え込み経済は熱い」という様な報道は多いですが、どういう形であれこれからも日本にとって中国は重要なパートナーであり続けることでしょう。特に鳥取県のように環日本海経済圏に含まれる絶好のロケーションにある県では、日中関係が友好であればあるほど、県にとっても良いことだと私は思います。

それにしてもここ上海で20世紀梨に出会えるほど上海と鳥取県の交流は深まっているのです。聞けば県民の皆様の中でも駐在などで上海に来られる方が増えているそうです。その際、お子様の教育について不安を持たれる方もおられるかもしれません。ですが現在、上海の教育事情はかなり整ってきており、日系幼稚園、日本人学校、インターナショナルスクール、外国語大学付属高校国際部等々、選択肢自体も広がってきており、日本の大手学習塾も複数進出しているような状況です。ですから、あまりご心配にならないようにと付け加えておきたいと思います。

### 生徒数世界最多！中国上海日本人学校

ここでは、上海日本人学校の学校生活についてご紹介します。私が勤務している上海日本人学校は、虹橋経済開発区にあります。中国の経済発展と共に上海に住む日本人も増えていき、5年前は約600人だった生徒数が、今では約2200人という世界で最も大きな日本人学校となりました。これからも増え続けるだろうということで、平成18年度4月からは浦東地区に新校舎を設立し中学部はすべて浦東校、小学部は浦東校と虹橋校の2校という形をとることとなりました。目下、4月の開校に向けて生徒・教職員ともに様々な準備をしている所です。

#### ①学校の基本方針

校訓 「独歩博愛」

学校教育目標 「自らを高める、明るく、優しく、たくましい児童生徒を育成する」

児童生徒生活標語 「いつもにこにこ一生懸命」

学習指導要領に基づき、日本へ帰国しても自然になじめるよう日本と同様の教育が受けられることが大きなメリットです。施設面では、2つの体育館に室内プール、2つの図書室と、かなり充実している学校です。もしデメリットがあるとするなら、校内ではあまり海外にいることを感じられないことでしょうか。ですが、中国語学習も週1時間あり、現地校との交流や校外学習、宿泊学習もとてもさかんで、その点をカバーしようと努力を続けている学校です。

## ②登下校

海外ということもあり、生徒だけの登下校は認められていません。大半の生徒はシャトルバスを利用します。毎日大型バスが50台程も行き来し、どんな観光地よりも長いバスの行列は圧巻です。それでも一斉下校をすると人数的に危険だということで小学校低学年、高学年、中学部と3通りの下校時間を設けて対応している状況です。何よりも子供達の安全を最優先する学校なのです。下校時、生徒達の多くは熱心にバスの窓から手を振ってくれますが、その姿はとてもかわいらしく、これは上海日本人学校の名物かもしれません。

## ③授業

教育課程は日本と同様です。小学校では地域学習がさかんで、日本でも地域の様々な施設を訪れることと思いますが、上海でも日系企業の工場見学をしたり、有機農業をしている農場を見たりしています。総合学習では、どの学年でも1年に1度は中国文化についての学習を取り入れています。

語学では、小1から週に1度の英会話の授業があります。中学部でも通常の英語とは別に英会話があり、ネイティブの先生もいて少人数で受講しています。中国語でも、きめ細かい指導ができるよう、会話能力に応じたクラス分けをして中国人講師による少人数授業を展開しています。

## ④各種行事

大人数のメリットは、何と言っても勢いのあることです。例えば、約2200人の大運動会では、紅白に分けての応援合戦がみものです。小中併設の良さを十分にいかして、中学生が小学生を指導したり、紅白の縦割りをして得点を競い合ったりと、大変に盛り上がります。様々な行事の小中の関わりの中で、お兄さんお姉さんはより年上らしく、年下は年上を見習いながら、互いの大きな成長を見ることができます。目前の行事としては、4月の浦東校開校に向け、学校としてのお別れ会に力を入れています。全校でモザイク壁画を作成し、大合唱に向けて練習の毎日です。

また、特徴的な行事としては中学部の中日スピーチ大会があります。日中友好をテーマに、現地校からは日本語スピーチ、本校からは中国語スピーチを披露しました。私も大きく関わらせて頂いたのですが、双方の思春期の子供達の繊細な視点から打ち出される意見は、どれも考えさせられる内容ばかりで、大変有意義なものが残る、在外教育施設ならではの行事です。

そういうわけで、たくさんの子供達が安心して生活できる学校が上海日本人学校です。外国で日本と同様の教育を目指すわけですから、教材がそろわず困る部分もあります。ですが日本と変わらない子供達が毎日通ってくるので、職員皆で協力して探したりして対応しています。そんな時、いつも手助けしてくれるのが中国の現地スタッフの方々です。在外教育施設が何とかやっつけていけるのも、その土地の人の協力に寄るところがとても大きいと日々感じています。